

令和7年度 第3回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和7年12月16日（火）15時00分～16時30分

四国森林管理局 局議室（対面）

2 議題

- （１）管内における木材需給、価格動向等について
- （２）各分野における現状や今後の見通しについて
- （３）意見交換
- （４）その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

住宅着工戸数は５月から回復傾向にあったが、四国（木造）では７月以降頭打ちでほぼ横ばいで推移しており、１０月末時点では対前年度比 92.2%と低迷している。

今後の動向は不透明であるが、建築資材の高騰等の影響により、動きは停滞することが予想される。

このような中、木材の需給状況については、国産材製品は輸入材からの代替需要等により、一定の引き合いは見られる状況。伐旬で天候も安定していたこともあり原木の出材は順調で、不足感は徐々に解消され、原木価格は保合で推移している。

今後は積雪等の影響が出てくる時期となることから、出材量減少も懸念される。

以上の状況を踏まえ、現時点では国有林材の供給調整は行わず、森林整備を通じた安定的な原木供給に努める。引き続き製材品の需要動向や民有林材の出材状況を見極めつつ、地域の実情に即した供給調整の可否を検討していくこととする。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・ 高知県内の原木生産量は、７月～９月は昨年並みで推移しており、今後は増加傾向と考える。
- ・ 再造林が増加傾向にあり、素材生産に係る担い手に対応することとなれば、生産量の拡大は難しい状況。
- ・ 生産活動は順調に行われている。労働力確保の観点から、現場作業時間の短縮を検討する事業体の動きがある。
- ・ 慢性的な現場作業員不足が懸念される。

○ 原木市場・共販所等

- ・ 入荷量は増えつつあるが、原木の不足感はある。年度末に向け入荷量は増加してくると思われる。
- ・ 原木不足は続いているが、住宅着工戸数が少ないため、原木価格は上がらないと

思われる。

- ・ 買い気は弱い、荷動きはある程度動きがある。
- ・ 円安が続けば輸出向けの原木の動きも増える可能性があり、四国内での新しい製材工場の話もあることから、原木は一定量必要となるのではないかと。
- ・ 木材価格は大きく変動しないと予想。
- ・ 入荷量は増加傾向にあり、例年通りの数量で推移する見込み。
- ・ 製材所の原木在庫の不足感から引き合い良好であり、木材価格はスギ・ヒノキとも売れ行き好調で安定しており、今後も横ばいで推移すると思われる。

○ 製材工場等

- ・ 原木不足から入荷は少なく、市場販売価格は少し高い。
- ・ 人材不足から原木は不足と言われているが、原木が既存の流通ルートでなく、直接ルートで流れているのではないかと。
- ・ 製品の荷動きは悪く価格は安値安定、原木小高の製品安状態。高知県内の住宅会社に覇気がないが大手住宅会社は着工数が出ており、販売先の偏りが鮮明化すると思われる。
- ・ 原木調達は順調で、計画通り稼働中であり引き続き生産予定。原木高、製品安が続き大変厳しい状況。製品価格は上げてもらいたい、その他資材の高騰もあり値上げは困難であり、地域密着の工場やプレカット工場は、大変厳しい状況。
- ・ 国産材のさらなる需要の拡大を目指したい。
- ・ 原木在庫がないので、今後は雪が心配。
- ・ 11月の製品の動きは良かったが、今後は悪くなると予想。